

一般質問



高齢化社会での市民コミュニティをこの文脈で取り上げた理由は、右のマンガに描いた通りです。

⇒⇒⇒⇒

市民が主役になる

これまで「市民協働」というと、何か余裕ある市民の趣味的活動のように捉えられる節がありましたが、人口減に向かう今の日本ではますます重要な課題となるはずで。何しろ行政の側が、「全ての市民サービスを公共だけでは行えない」と言っているのですから。

もちろん公でなければできない役割もありますが、私は市民参画をもっと活性化させなければと思っています。行政の不足分を補佐するのではなく、まちのメインプレイヤーとして。

孤立する人をつくらない

防犯・防災問題に限っても、住民がいつどんなアクシデントに見舞われるかは予測不能です。たとえば昨年夏の唐木田地区におけるビル火災では、大量の黒煙が噴き上げた影響で周辺住民に健康被害が出た、という話も聞きました。何かあったときに誰も孤立することのない、常にパブリシティに繋がれるコミュニティの整備が、市民の安全を保障する鍵だと思います。

非常時だけでなく普段の暮らしから

そももちろん、市民の困りごとは非常時ばかりとは限りません。日常生活の中で見えてくる問題・課題を、まちづくりの材料として活かせる社会。その実現のために市民と行政と議会が力を合わせていきましょう！

